

No. 1544

寒波の中の首脳外交

— 中曽根首相訪欧 —

今年のヨーロッパは100年ぶりといわれる猛烈な寒波に襲われています。

この厳しい寒さの中、中曽根首相は1月10日から17日までフィンランド、東独、ユーゴスラビア、ポーランドの欧州4ヶ国を訪問しました。

第一の訪問国、フィンランドではソレサ首相と会談し、文化交流の一つとしてフィンランドの青年50人を日本に招待すると約束。東独のホーネッカー国家評議会議長との首脳会談では、ソ連のゴルバチョフ書記長の演説を批判しながらも、対ソ打開につとめる発言をしました。

また日本の作家森鷗外の留学していた当時の部屋をたずね、その質素な暮らしぶりに驚いた様子でした。

ユーゴスラビアでは故チト一大統領の墓に献花。ハサニ大統領、ミクリッチ首相との会談で、ユーゴの非同盟路線を貫くために日本の経済協力に強い期待が示され、中曽根首相も民間投資、技術協力を検討するとのべました。

つづいてベオグラード大学で記念演説。「今回の訪欧が東西の平和と軍縮のかけ橋となり、米ソ両国の首脳会談がすみやかに行なわれることを要望する」などと発言。

最後の訪問国ポーランドでは、ヤルゼルスキー国家評議会議長との会談で同議長の年内の日本訪問を招請。わが国がヤルゼルスキー体制を認知すると共に「連帯」の処遇や人権問題にも関心をもっていると注文をつけました。ソ連のゴルバチョフ書記長の訪日予定の前に行なわれたこの欧州4ヶ国首脳会談は、日本の外交に新しい一面を示したといえそうです。